

学校経営の方針

1 はじめに

経済・社会のグローバル化が拡大、ICT環境の進展、そして、地球環境問題、少子高齢化など、私たちは、社会の変化、課題への対応が求められている。そこに、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、新しい生活様式の中で、私たち教職員も子どもたちもコロナ禍と向き合い、授業のあり方や行事の取り組みはもちろんのこと、他者との温かな心の関わり方を模索している。

平成29年3月31日に告示された中学校学習指導要領では、学校教育においては、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために、「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有しながら、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの力をバランスよく育むことを重視しつつ、知識の理解の質を高め、指導と評価の一体化の実現を図りながら、確かな学力を育成することが求められている。また、豊かな心や健やかな体を育むために、道徳教育や体験活動、体育・健康に関する指導の充実に努めていかなければならない。

そして、ICT環境の進展の一端として、GIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクール対応「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」ために、五所川原市でも1人1台端末が導入され、生徒一人一人がタブレット端末を“文房具のように使用する”ことを前提とした授業を構築することが求められている。

本校は、諸学力検査の結果に違いはあるが、これまで県平均・全国平均をやや上回る力を示している。しかし、個々の能力差が大きい、目標を設定し計画的に学習する習慣が身に付いていない、節度を持った情報機器の使用ができていないなどの課題を抱えている。

生徒のアンケート結果から、「先生方はいつでもわからないときにきちんと教えてくれる。」「授業に真剣に取り組んでいる。」「先生方はいろいろな教材や教具を使って授業の工夫をしている。」との評価を得ることができ、生徒の授業に取り組む姿勢、思考力、表現力も高まってきている。また、本校教師も、主体的な学びへ向かうための導入時の課題設定や協働的な思考場面設定の工夫に取り組むことで、授業の充実・改善を身をもって感じるようになっていく。

今年度は、研究主題を「自分の考えを持ち、分かりやすく表現できる生徒の育成」とし、実践的重点課題「個の考えを充実させるための学習過程を工夫した授業実践」に取り組み、より一層の校内研修の充実と授業改善に努め、確かな学力の向上を図っていききたい。

生徒は素直で明るく、また、諸行事では、全校一丸となって取り組み、成果を挙げている。ただ、生徒数が少なく人間関係が固定されたり、思いやりのない言動で人間関係が壊れやすい状況に置かれたりするときがあるため、相手の立場に立って物事を考えられるよう、望ましい人間関係づくりを意識した指導に努めていききたい。また、健康や体力はあらゆる活動の源であるため、健康への正しい知識と関心を持たせるように配慮していくとともに、体育の授業や運動部の部活動を通して、運動の楽しさを味わわせ、生涯にわたり継続して運動に親しむ態度を育てていききたい。

以上のことから、「確かな学力」と「豊かな心と健やかな体」の育成の2点を教育課題と捉え、その解決に努めていく。

P T A活動は活発で、保護者は学習・部活動を始め学校の教育活動全般に高い関心を持ち、協力的である。また、地域の祭りや体験学習を通して、地域とも積極的に交流が図られている。学校と家庭・地域及び関係機関と連携し、キャリア教育の視点を生かした協働指導体制で教育活動を推進していききたい。

2 校訓

「自主」「協和」

3 教育目標

『心豊かで、たくましく頑張る生徒』

4 努力目標

- やる気を持って、粘り強く学習する生徒（知）
- お互いに助け合い、礼儀・あいさつを大切にする生徒（徳）
- 積極的に心身を鍛える生徒（体）

5 学校教育課題

「確かな学力」と「豊かな心と健やかな体」の育成

6 実践的重点課題

「個の考えを充実させるための学習過程を工夫した授業実践」

7 研究主題

「自分の考えを持ち、分かりやすく表現できる生徒の育成」
～思いや考えを伝え合う活動の工夫を通して～

8 学校経営の重点

(1) 「確かな学力」の育成

- ① 主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程による授業改善に努める。
- ② 生徒指導の4つの視点（・自己存在感の感受 ・共感的な人間関係の育成 ・自己決定の場の提供 ・安全・安心な風土の醸成）を下にした成就感や達成感を味わえる授業づくりに努める。
- ③ 生徒の能力を最大限に伸ばす教職員の実践的指導力の向上に努める。
- ④ 1人1台端末等のICT機器や新聞を積極的に活用し、情報教育の推進や思考力・判断力・表現力の育成に努める。

(2) 「豊かな心と健やかな体」の育成

- ① 道徳科を要として教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実に努める。
- ② 不登校やいじめを生まないために、スクールカウンセラーを活用し、教育相談機能を生かした生徒指導を全校指導体制で推進する。
- ③ 豊かな心、健やかな体を育む健康教育と体験活動の充実に努める。

(3) 「教職員としての資質・能力の向上」の推進

- ① 生徒の実態に基づいた校内研修に取り組み、成果と課題の把握に努める。
- ② 校外研修及び自己研修を積極的に推進し、成果を他の教職員に反映させる。
- ③ 服務規律等の遵守を徹底する。

(4) 「開かれた学校づくり」の推進

- ① 授業参観・面談を通して、学校教育への理解と保護者と教師の信頼関係を深める。
- ② 学校だよりや学級通信等を通して、家庭・地域の学校教育への一層の理解を促す。
- ③ 小学校・地域との積極的な連携に努める。(学習、伝統文化、愛着と誇り)
- ④ キャリア教育の視点を生かした家庭・地域との協働指導体制の充実に努める。

9 目指す学校像

- (1) 生徒が夢と誇りを持ち、生き生きと活動する学校
- (2) 生徒も教師も信頼関係で結ばれ、互いに成長していく学校
- (3) いじめの未然防止に取り組み、いじめを許さない学校
- (4) 安全で美しく整備された環境の中で、安心して活動できる学校
- (5) 保護者・地域が親しみを持ち、明るく開放された学校

10 求める生徒像

- (1) 命を大切にする生徒
- (2) 夢を育て、夢の実現に向けて意欲的に学習する生徒
- (3) 諸活動に全力で取り組み、苦しくてもやり抜く生徒
- (4) 礼儀・あいさつを大切にし、決まりを守る生徒
- (5) 自他の良さを認め、思いやりを持ち協力し合う生徒

11 求める教師像

- (1) 教育に情熱を持ち、生徒と共に活動する教師
- (2) 組織の一員としての自覚を持ち、高いモラルと協調性のある教師
- (3) 生徒の良さを伸ばすために、自己の資質・能力の向上に励む教師
- (4) 自らの健康に留意し、万全の状態職務に取り組む教師
- (5) 保護者や地域に信頼される教師